

大湾区の未来と可能性⑥

～北上する香港人と大湾区の医療介護の発展～

◇ 北上する香港人

- ・新型コロナウイルス関連の規制がなくなった 2023 年以降、香港では「北上消費」というフレーズを頻繁に見聞きするようになりました。これは、香港居住者が隣接する中国深圳市などの大湾区各都市へ文字通り「北上」して食事をしたり買い物をしたりする事を指します。2024 年はその動きが加速し、1 月～4 月に陸路で深圳市側に入った香港居住者は延べ約 2010 万人と前年同期比 7 割増加しました。香港の人口は約 750 万人であるため、一人当たり 2 回以上深圳市側へ行った計算となります。
- ・大湾区各都市では、香港よりも安価に食事や買い物を楽しむことができますが、最近は料理やサービスの品質も向上しており、多くの香港居住者による中国本土での消費が拡大しています。2024 年 1 月には深圳に会員制大型スーパー「Costco（コストコ）」がオープンし、香港からも多くの買い物客が訪れたと香港メディアは報じており、これも「北上」の動きに拍車をかけているようです。



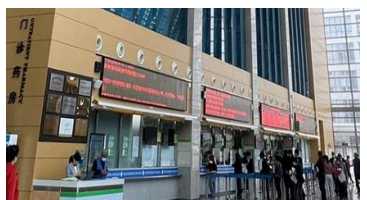
深圳へ向かう人で賑う、MTR 羅湖（Lo Wu）駅。

6 月末の 3 連休には 111 万超の香港人が中国で余暇を過ごした。

（香港駐在員事務所 撮影）

◇ 大湾区における医療介護分野の取組

- ・近年、消費行動以外でも「北上」の動きが活発化しています。
- ・香港よりも低コストで生活できることなどから、リタイア後の生活拠点に中国本土を選ぶ香港人が増えていると報じられています。また、介護付き住宅への入居が容易であることも理由の一つにあるようです。
- ・大湾区各都市は高齢者向けの医療介護サービスの分野で連携を進めています。たとえば、香港政府は香港に住む高齢者に対して、香港域内の病院のほか香港大学深圳病院で使える医療バウチャー（病院など医療機関で使用できる利用券）の発行を 2024 年半ばから開始しました。2024 年 3 月には広東省政府から、広州市南沙地区において越境の高齢者に対する介護サービスの標準化を進める取組をスタートすると発表されました。大湾区の高齢者に対して、中国本土のコスト優位と香港の高度な技術が融合した医療介護サービスの提供を目指すものです。
- ・世界でもっとも平均寿命が高い国（地域）で 1 位となったこともある香港では、医療体制が逼迫しており、待ち時間も長いという課題があります。医療バウチャーの適用拡大をはじめ、今後ますます大湾区内における医療介護分野での連携が進み、「北上」の動きがさらに活発になることが期待されます。



香港大学深圳病院の概観（上）と受付の様子（下）

出所：香港大学医学部

2024 年 8 月 8 日作成

西日本シティ銀行香港駐在員事務所